



令和 7 年度 幼児教育研究会

岡山大学附属幼稚園

令和 7 年11月 1 日（土）

本日の内容

1. 研究の経緯

2. 研究の方法

3. これまでの研究のまとめ

本日の内容

1. 研究の経緯

2. 研究の方法

3. これまでの研究のまとめ

1. 研究の経緯

(1) 令和6年度までの研究

令和4年度～令和6年度

【研究主題】 共にくらしを創る

【研究副題】 一幼児の「自己決定」を支える環境づくりー

「自己決定する姿」

身の回りの人やもの, ことに出会ったときに自分で感じて考えて思いをもって表現する姿

「環境づくり」

幼児の自己決定を支える教師の援助と環境の構成

1. 研究の経緯

(2) 本研究の主題設定の理由

① 令和6年度までの研究を基盤にして考える

令和6年度までの研究

自己決定の経験

新たな視点

就学後の学びの姿勢の基盤

小学校との学びのつながりを
探っていきたい



1. 研究の経緯

※詳しくは玄関に掲示
しております。

(2) 本研究の主題設定の理由

② 本園の実態から考える

幼児期の経験を小学校以降の学びにつなげていくことを目指し、小学校との連携を図っている。

- 1. 教師間の連携 : 共同活動の計画や学年会, 週計画簿の共有等
→ 幼児・児童の経験や姿から相互のつながりや育ちを見取り, 保育や授業に生かす

1. 研究の経緯

※詳しくは玄関に掲示
しております。

(2) 本研究の主題設定の理由

② 本園の実態から考える

2. 幼児の活動 : 交流給食や小学校探検, 授業見学, プールや図書館の使用, 絵本の読み聞かせ・運動遊び等
→ 小学校の施設, 小学生, 教師に親しみや関心をもったり,
安心感を育んだりし, 就学に期待をもつ

1. 研究の経緯

【研究主題】

未来へつなぐ「架け橋」

【研究の目的】

幼児教育と小学校教育の学びのつながりを明らかにすることで、幼児の学びの連続性を保障することを目的とする。

そして、前研究で育まれた自己決定の姿を土台としながら、小学校以降の学びにつなげていくことを目指す。

本日の内容

1. 研究の経緯

2. 研究の方法

3. これまでの研究のまとめ

2. 研究の方法

今年度(1年次)の研究の方法

1. 幼児の遊びの姿と小学校での学びのつながりを捉える視点を探る
2. 幼児の協同性について共通理解を図り、協同性の育ちを意識した保育実践を行う
3. 事例をもとに、幼児の協同性を見取り、協同性を育む教師の援助と環境の構成を省察する
4. 発達過程ごとに見られる幼児の協同性について考察する

2. 研究の方法

1. 幼児の遊びの姿と小学校での学びのつながりを捉える視点を探る

① 附属小学校の授業づくりとのつながりから探る

岡山大学附属小学校に就学する幼児がほとんどである。

【岡山大学附属小学校 研究テーマ】
「自らの意思で学び続ける子供」

個別最適な学び

協働的な学び

小学校教育の「個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実」につながる幼児期に見られる姿を探り、
育むことが重要



2. 研究の方法

1. 幼児の遊びの姿と小学校での学びのつながりを捉える視点を探る

②これまでの研究を基盤に探る

他者とのつながりの中で自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け止めたりする姿や
多様な視点で見たり考えたりする姿

個別最適な学び

協働的な学び



自己決定を支える環境づくり



幼児一人一人が感じ考え、思いを表現しながら遊んだり生活を営んだりする

2. 研究の方法

1. 幼児の遊びの姿と小学校での学びのつながりを捉える視点を探る

小学校の「協働的な学び」は、幼児教育のどのような育ちとつながりが
見られるのだろうか…？

～ 「協働的」について改めて調べました ～



【「協働的な学び」】

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する

(文部科学省 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実より引用)

2. 研究の方法

1. 幼児の遊びの姿と小学校での学びのつながりを捉える視点を探る

【幼稚園教育要領の「協同性」】

幼児は、友達と関わる中で、様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しい、等の様々な感情体験を味わい、友達との関りを深めていく。その中で互いの思いや考えなどを共有し、次第に共通の目的をもつようになる。(中略)目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感を持って幼児同士でやり遂げるようになる。

(文部科学省 幼稚園教育要領解説 p58-59 引用)

協同性に着目して教師の援助や環境の構成を考えることで、幼児の育ちをよりの確に見取ることができ、小学校以降の学びのプロセスを明らかにするための一助となるのではないか。

2. 研究の方法

【研究主題】

未来へつなぐ「架け橋」

【研究副題】

ー協同性に着目してー

2. 研究の方法

2. 幼児の協同性について共通理解を図り，協同性を意識した保育実践を行う

(職員間の話し合いにて)

協同性って友達に自分から関わろうとする姿や友達の考えを受け入れながら遊ぶ姿をイメージします

相手のよさを感じたり協力したりする姿も協同性ですね

2. 研究の方法

2. 幼児の協同性について共通理解を図り，協同性を意識した保育実践を行う

それも大事ですね。人に合わせようとするだけでなく，自分のしたいことや考えたことも大切にしてほしいですね

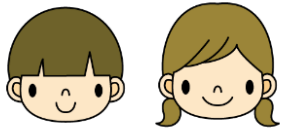
自分の思いを受け入れてもらえた嬉しさや他者と関わる楽しさを感じ，友達へ関心をもったり思いや考えを伝え合ったりできるようにしていきたいですね

【本園における協同性】

自分も相手も大切にしながら，他者と関わろうとし，共に活動しようとする姿

2. 研究の方法

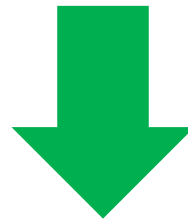
エピソードを語ろう会



自分も相手も大切にしながら，他者と関わろうとし，共に活動しようとする姿



協同性を見取り，協同性を育むために大切な教師の援助と環境の構成を探る



週に一度エピソードを持ち寄る

自分の保育を振り返り，見取りや考えを深めるとともに，
日々の実践の中で協同性を意識して幼児と関わることができるのではないか。

本日の内容

1. 研究の経緯

2. 研究の方法

3. これまでの研究のまとめ

3. これまでの研究のまとめ

協同性に着目して教師の援助や環境の構成を考慮することで、幼児の育ちをよりの確に見取ることができ、小学校以降の学びのプロセスを明らかにするための一助となるのではないか

「協同性」の育ち

教師の援助と
環境の構成



エピソードを語ろう会
事例検討

教師間で幼児の育ちを見取る視点を共有

多面的な視点で幼児の育ちを見取る



より見取りが深まり、
幼児の育ちを支えられる

3. これまでの研究のまとめ

- 1 エピソードを語ろう会と事例検討の成果
- 2 幼児の発達過程による「協同性」の育ち
- 3 幼児の「協同性」を育んだ教師の援助と環境の構成

3. これまでの研究のまとめ

1 エピソードを語ろう会と事例検討の成果

エピソードを語ろう会, 事例検討

- ・教師間で幼児の「協同性」の捉えを共有
- ・「協同性」を育む教師の援助と環境の構成について多面的に考える



日々の保育の中で「協同性」の育ちを意識して幼児と関わることができ、
幼児の育ちのつながりをより丁寧に見取ることができた

3. これまでの研究のまとめ

2 幼児の発達過程による「協同性」の育ち

<3歳児>

- ・安心感を基盤に教師から友達へと意識が広がっていく時期
- ・自分の気持ちを教師に受け止められ、大切にしてもらった経験を積み重ねる中で、安心感を育み、自己発揮しながら集団生活を楽しむようになっていく

安心感の育ちを基盤に他者へ関心が広がるとともに、
他者に関わってみようとする「協同性」が育まれる

3. これまでの研究のまとめ

2 幼児の発達過程による「協同性」の育ち

<4歳児>

- ・3歳児で育まれた安心感を基盤に自己発揮して遊ぶ中で、近くにいる友達に興味をもち、見たり、友達がしていることに気付いたりする姿が見られるようになる時期
- ・友達と関わる楽しさを様々な遊びの場で繰り返し経験することで、気になる友達や気の合う友達を見付け、自分なりの方法で関わろうとする姿が見られるようになる

教師の仲立ちにより、友達のもつ思いを知ったり適切な表現方法を身に付けたりしながら、友達と関わろうとする「協同性」が育まれる

3. これまでの研究のまとめ

2 幼児の発達過程による「協同性」の育ち

<5歳児>

- ・自分なりのめあてや願いをもち、その実現に向けて繰り返し試行錯誤する時期
- ・友達の思いに気付いたり、友達の気持ちに寄り添ったりすることができるようになる

自分の考えを教師や友達に伝えたり、友達の言っていることを受け入れたりし、自ら友達に関わり、一緒に遊びを進めようとする「協同性」が育まれる

3. これまでの研究のまとめ

3 幼児の「協同性」を育んだ教師の援助と環境の構成

<3歳児>

- ・幼児一人一人が自分の思いを十分に発揮し、その一つ一つの思いに応じていくこと
- ・幼児が思いをもったタイミングを逃さず応じることや「してみたい」と思える環境の構成

<4歳児>

- ・幼児の言葉を繰り返したり、思いを代弁したりすること
- ・自然と友達のしていることを見たり、気付きを言い合ったりできるような環境の構成

<5歳児>

- ・材料や用具を豊富に準備する
- ・一緒に材料を準備し、幼児の思いに応じていく環境の構成および再構成
- ・考えを伝え合おうとする姿を見守り、必要に応じて言葉を補ったり引き出したりする

3. これまでの研究のまとめ

3 幼児の「協同性」を育んだ教師の援助と環境の構成

どの発達過程においても幼児の思いを受け止め、応じていくという基本姿勢をもとに、各学年に応じた援助や環境の構成が大切である
そのような援助によって自分の思いを実現する中で、他者に関心をもち、自ら関わろうとする「協同性」が育まれていく

安心感

- ・自分のしたいこと
- ・友達と関わる中での
もどかしさ

- ・互いに伝え合う
- ・気持ちに折り合いをつける
- ・協力する

3. これまでの研究のまとめ

今後の研究の推進にあたって

- ・1年間を通した学年の「協同性」の育ちを見取るまでに至っていない
- ・事例の数が少なく、幼児の育ちに関する教師の見取りが不足している



- ・引き続き多くの事例を検討し、より深く幼児の「協同性」と、それを育んだ教師の援助と環境の構成を探る
- ・発達過程に教師の援助と環境の構成についてまとめ、小学校以降の学びとのつながりを明らかにしていきたい。



ご清聴ありがとうございました。